

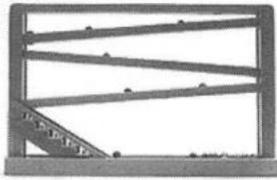


### ご紹介します

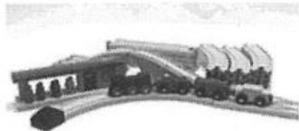
おもちゃの店

## 『ちいろば』

(川越市)



シロフォン付き玉の塔



自動車セット

我が家にあるこの二つのおもちゃは、「ちいろば」で購入したものです。娘3人が遊んで、その後は数年間、近所の市川さんの家に行って、遊びに来るお孫さんに喜ばれていました。今は休命中ですが、またいつか必ず大活躍する日が来ると思っています。買った時には、他のおもちゃより高価でしたが、孫まで、いえ多分もっと長く使えると思いますので、長い目で見れば高くはなかったと思います。

「ちいろば」さんは、20年以上前からドイツやスウェーデンのおもちゃを中心に扱っているお店です。店内には、木のぬくもりがあり、明るい色使いのおもちゃがたくさんあります。一つ一つが安心して使えるものです。

プラスチックの大量生産のおもちゃをたくさん買うか、大切に作られたおもちゃを買うか、これからの時代には考えるべきことではないでしょうか。

(たくさんあった我が家のプラスチックのおもちゃは、ほとんど処分してしまいました。)

### 『ちいろば』のおもちゃへの思い

ドイツを中心としたヨーロッパ各国のおもちゃを目にすることがあったのですが、丈夫で長持ち、手作りならではの独特の質感、あたたかみに驚きました。こんなおもちゃをぜひ多くのお子さんに知ってもらいたい。そんな思いから「ちいろば」は小さな一歩を踏み出しました。

日頃、お子さんのおもちゃをどんな基準でお選びになっているのでしょうか？子どもの食事には実に細かい配慮をするお母さんも、おもちゃの与え方にはまったく無神経であるのをよく見かけます。食べ物が体を成長発達させるために、基本的な欠かせぬ存在であるように、おもちゃは子どもの心や精神、情緒を成長させるのに欠かせない貴重な存在です。

子どもから大人までが感動し真剣に取り組めるものを、成長に見合ったものを、決して数多くなく計画的に与えることが大切です。

2021.10現、内容に変更無し



所在地 埼玉県川越市旭町2-7-11

定休日 日曜日、月曜日  
(月曜が祭日の場合は営業し、翌日が代休です)

TEL 049-244-5860

FAX 049-244-5874

HP [www.chiiroba-toys.com](http://www.chiiroba-toys.com)



### 人と住まい(予防医学住環境)講座

山本里見 (東北住環境研究室代表 工博)

#### 家庭内事故を防ぐ

#### ○なぜ、事故はおこるのか！

人はなぜ、転んだり、怪我したりするのでしょうか。

「不注意だから」などと、怪我したご本人が非難されることが多いのですが、注意深く行動したら問題は解決するのでしょうか。そんなことにならないのは皆さんもよくご存知でしょう。

脳が考えるのだから、それに従い慎重に行動すればいいと思うかもしれませんが、どうも脳に対して誤解があるような気がします。

一つは時間差です。目の前に赤いリンゴが転がっていたとします。それを目を見て、“赤いリンゴが転がっている”と認識するまでには、早くても0.1秒かかるそうです。もっと高度な判断をするような内容になると、情報処理に0.5秒くらいかかるそうです。それを判断して、危険を避けるための行動の指示がでて、筋肉が行動するのですから、どうしてもタイミングがずれるわけです。1秒以上は遅くなるのではないのでしょうか。少なくとも、瞬時の判断・行動ではありません。だから、見えてはいても避けられなくて転んだり、つまずいたりしてしまうのです。

もうひとつは、いつも脳が指令を出しているわけではないようです。脳には無数の情報が目、耳、皮膚などから入ってきますから、それにいちいち丁寧に対応して、判断していたらパンクしてしまいます。だから手を抜いているのです。音楽を流しながら、仕事をする場合を考えたらよくわかります。時々しか音楽は頭に入ってきません。行動をする場合でも同じで、過去にうまくいった経験を覚えていれば、それをもとにしようとなります。そうすると、多少でも昔の状況と変わっていてもその修正はされませんから、昔と同じにはならないわけです。それに体力も違っており、足を上げたつもりでも昔ほどあがってなければつまずきます。

それに、酒に酔う、発熱したなど、正常な脳の活動を期待できない場合もあります。また、脳も休息が必要です。

昔の経験や学習でつちかっていた判断力を直感というのだそうです。これは、人、サルなどにしかない能力だそうですが、これで総合的な判断ができるのです。これに対し、「論理的な判断」で行動する場合は1~2割程度と少ないそうです。

このような脳の働きを考えると、直感で行動し、情報の時間差があっても怪我をしない家にするのが、事故・怪我を防ぐことにつながるのです。

実は、それがバリアフリーの根底にある考え方なのです。

次回は、“なぜ、高齢者は事故を起こしやすいか”を考えます。

